



## 幹事長 半貫光芳

二期 昭和四十八年一月三十一日生

厚生常任委員会

住所 宇都宮市若松原一七二二一〇六

電話 〇二八八八八八五二二一

市政運営でもっと説明責任を果たすべき

増え続ける行政ニーズに対して減り続ける税収。「あれもやりませう。これもやりませう。」から「どの事業を優先し、その理由は何か。」という説明責任が問われる時代です。しかし予算編成の基となる、実施計画は私たち議員に対しても非公表です。何も言わずに議会は賛成だけすれば良いと言わんばかりです。

こう言った閉鎖的な市政運営は、予算に限らず人事でも行われています。行政改革の名のもとに、職員数を削減していますが、これは毎年二百名程度の退職者に対して、採用を半分以上に抑えて自然減を行っているだけです。でも幹部職員の数は増やしているのです。人数は減っても、人件費全体は増え続けるというお手盛り人事が行われています。

天下りは宇都宮市でもあり

ます。公益法人の特性から行政経験者が望ましいとの考えのようですが、せめて民間人を含めた公募で行うことで、やましい目で市民に見られることが無いようにするべきです。

教育委員会は現場をいじり過ぎ

市長さんが声高に「他に払っていない人がいるのに私も払うのは不公平。」などという観が増えているなど、給食費の滞納問題を取り上げていました

が、連帯保証人付き確約書なんでおかしなものを導入する前から、滞納率は0.5%。市民税の八%。国保税の二十八%の滞納と比べてどれだけ深刻だったのでしょうか。確約書で苦情を言われ、滞納整理で奔走させられた先生方は気の毒でした。

また、中一ギャップの解消のために、小中一貫教育を全市で行うようですが、高校に上がっ

ても高一ギャップもあるし、就職しても五月病になる人もいる。そう

いった事を乗り越える力をつけるのが教育ではないでしょうか。この小中一貫教育のために、夏休みと土曜日に授業をしないと、カリキュラムが消化できなくなるようです。でも学力の向上という

効果はあまり見込めないと現場でも指摘されています。一体何のための小中一貫教育なのか。給食費の問題と共通するところは、教育委員会は大きに騒ぎ、現場をいじり過ぎています。もっと子ども達と向きあえる時間を作ること。当たり前の教育に立ち返るべきです。



# 12月議会